



第35回 「Introduction to Model Context Protocol」 Anthropic 公式 Claude Academy

Claude Code

動作を覗く道具

公式の教材を、順番に

原石工房

隠れた才能に気づき、花開く

この資料について



原石工房

Anthropic とは関係のない、非公式の資料です

公式の学習サイト Claude Academy の日本語訳です

原文（英語）Introduction to Model Context Protocol / The server inspector

前回で道具を定めました。今回は、それを試す回です

全51回の、今日はここ



原石工房

Claude Code 101

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

第1回～第12回

Claude Code in Action

13 14 15 16 17 18 19 20 21

第13回～第21回

スキル

22 23 24 25 26 27

第22回～第27回

手分け (subagents)

28 29 30 31

第28回～第31回

MCP 入門

32 33 34 35 36 37 38 39 40

第32回～第40回

MCP 応用

41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

第41回～第51回

今日はここ 第35回

今日のレッスン



原石工房

Introduction to MCP の第4回

原題 The server inspector

訳 動作を覗く道具

ひとつおりのアプリにつながずに、作ったサーバーを試せます

① 検査の道具を動かす



原石工房

原題 Starting the Inspector

ひと通りのアプリにつながずに、試す

```
mcp dev mcp_server.py
```



作りかけ用のサーバーが立ち上がる

`http://127.0.0.1:6274` のような住所が出ます



その住所を、ブラウザで開く

そこが、MCP の検査の画面です

127.0.0.1 は、自分の機械そのものを指す住所です

外からは見えません

Python の動く場が立ち上がっているかは、先に README で確かめます

1行打てば、画面から試せる

`mcp dev mcp_server.py` と打ちま
す

作りかけ用のサーバーが立ち上
がり、自分の機械の中だけの住所が出
ます

その住所をブラウザで開くと、そこ
が検査の画面です

② 画面で探すもの



原石工房

原題 Using the Inspector Interface

画面で探すもの

Connect のボタン

自分のサーバーを動かし始める

行き先の見出し

資料・道具・頼み方など、種類ごと

道具の一覧と、試す枠

選ぶと、右側に中身と入れる欄が出る

まず Connect を押す

Disconnected (切れている) → Connected (つながった) に変わります

この画面はいまも作り替え中。見た目は違っても、中心は変わりません

押すのは、まず Connect

Connect のボタン 自分のサーバーを動かし始めるため

行き先の見出し 資料・道具・頼み方など、種類ごとに分かれています

まず Connect を押すと、Disconnected から Connected に変わります

③ 道具を試す

原題 Testing Your Tools

道具を1つ、試してみる

① read_doc_contents の道具を選ぶ

② 書類の番号を入れる (deposition.md など)

③ Run Tool を押す

④ うまくいったか、思ったものが返ったかを確認する

うまくいったかと、返ってきた中身の両方が出る
だから、きちんと動いているかをかんたんに確かめられます

List Tools で、持っている道具が全部出る

List Tools を押すと、持っている道具が全部出ます

1つ選ぶと、右側に中身と、入れる欄が出ます

番号を入れて Run Tool を押すと、結果と返ってきた中身の両方が見えます

④ 道具どうしのつながりを試す



原石工房

原題 Testing Tool Interactions

いくつかの道具を、続けて試せる

書き換える道具で直す → そのまま読む道具で確かめる
道具を呼ぶあいだも、サーバーの中身を覚えているからです

作る仕事の、欠かせない一部になります

・道具の中身を、すばやく直しては試す

・ぎりぎりの場合や、うまくいかない場合を試す

・道具どうしのつながりや、覚えている中身を確かめる

・その場で、不具合を調べる

試すプログラムを別に書かなくてよくなります

いくつかの道具を、続けて試せます

書き換える道具で直したら、そのまま読む道具で確かめられます

道具を呼ぶあいだも、サーバーは中身を覚えています

早いうちに、困りごとを見つけられる

覗いて、確かめる



原石工房

立ち上げる

`mcp dev mcp_server.py`

自分の機械の中だけの住所が出る

つなぐ

Connect を押す

Disconnected → Connected

道具を試す

List Tools → 選ぶ → Run Tool

結果と中身の両方が見える

続けて試す

書き換える → 読む

サーバーは中身を覚えている

アプリにつながずに、ここまで確かめられる

⑤ 作っているときの使い方



原石工房

原題 Development Workflow

道具の中身を、すばやく直しては試す

ぎりぎりの場合や、うまくいかない場合を試す

道具どうしのつながりや、覚えている中身を確認、その場で不具合を調べる

今回のまとめ



原石工房

mcp dev と打つだけで、画面から試せる

まず Connect。つながりの表示が変わる

List Tools で道具が並び、Run Tool で動かせる

続けて試せる。サーバーは中身を覚えている

試すプログラムを別に書かなくてよくなる



Introduction to MCP の第5回

原題 Implementing a client

訳 つなぐ側を作る

サーバーができたので、今度はつなぐ側を作ります

全51回の、36回目です

その道具、思ったとおりに動いていますか



原石工房

隠れた才能に気づき、花開く